

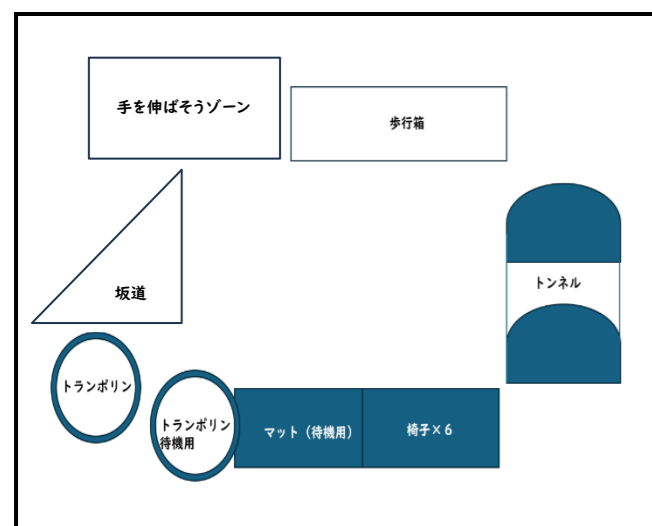
授業づくりシート

領域名 身体の動き

2 学年

テーマ	「いろいろな動きをしてみよう」	
事例児の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・人や物を注視することが少なく、苦手である。(身体の動き) ・人の声や音に注意を向けることができる。(身体の動き) ・動きにぎこちなさが見られる。(身体の動き) ・身体の可動域が狭い。(身体の動き) ・階段昇降は苦手。(身体の動き) ・歩行は安定。走りは尖足気味で跳ねるように走る。(身体の動き) ・回るものや音が鳴るもの、車、乗り物が好きで、見ると興奮する。(心理的な安定) 	
事例児の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の促しを受けて、様々な動きに取り組むことができる。(身体の動き) 	
活動内容と具体的な手立て		
活動内容	ねらい	具体的な手立て
サーキット運動 足を上げる	・教師と一緒に足元をよく見て活動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・足を上げて歩くことができるように、歩行箱に取り組む。 ・足を上げられるように、足を触って促したり、手を支えてバランスがとれるようにしたりする。
上に手を伸ばす	・教師と一緒に肩の可動域を広げることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・上に手を伸ばせるように、本人の興味があるカードや楽器を用意し、手を上げて触るようにする。(または、音の鳴る楽器を用意し、叩くようにする。)
関節をやわらかくする	・マッサージを通して、関節や足首などを回したり動かしたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスした状態で教師が足首を回したり、股関節を動かしたりしてやわらかくする。動いている部分を意識できるように言葉かけをする。

○場の配置



○教材教具等

- サーキット
 - トンネル
 - 歩行箱
 - 手を伸ばそう (カード剥がし、回転、音の鳴るボタン)
 - 坂道
 - トランポリン
- リラックスタイム
 - マット、BGM、クッション、おでんマット

○展開

時配	活動内容	教師の支援等
9:50	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に集まり、移動する。 ・別教室の椅子に座る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備に時間がかからないように、別の教室に活動の場を準備しておく。
9:55	<ul style="list-style-type: none"> ○始めの挨拶 ・活動の説明をして、サーキット運動を順番に始める。 <ol style="list-style-type: none"> ① トンネル (四つ這い) ② 歩行箱 (足を上げて歩く) ③ 手を伸ばそう (上に手を伸ばす) ④ 坂道 (上る) ⑤ トランポリン (ジャンプ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりがわかるように挨拶をする。 ・サーキット運動の流れも毎回同じものにする。 ・トンネルは、児童によって長さを変える。 ・歩行箱では足を上げられるように手を添える。 ・歩行箱を2種類用意し、選べるようにする。 ・手を伸ばそうでは、的やカード剥がし、楽器などいろいろなものの中から手を伸ばして届くものを選んで触ったり、剥がしたり、叩いたりする。 ・児童の好きな活動(トランポリン)を用意し、最後のお楽しみにする。 ・楽しい雰囲気を取り組めるように音楽を流す。
	<ul style="list-style-type: none"> ○リラックスタイム ・靴を脱ぐ。それぞれマットやクッションの上に横になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・靴を脱いでいる間にリラックスタイムの場の設定をする。 ・靴を脱ぐための支援(上履きを触る、手を足元へ持っていく)をする。 ・クッションやマットを用意して、背中を付けて横になれるようにする。 ・リラックスできるように音楽を流す。 ・部位ごとに分けてマッサージを行う。
10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりがわかるように挨拶をする。

○成果と課題

- 活動を固定することで、児童は見通しをもって取り組むことができていた。リラックスタイムでは、電気を消したり、曲が変わったりすることで自分から横になる姿が見られた。
- 手を伸ばそうでは、慣れてくると上の方にある音の鳴るボタンや回転イラストに触ろうと手を伸ばす姿が見られた。
- 坂道では、繰り返し取り組むことで自分から歩幅を調整して歩こうとする姿が見られた。
- トンネルや歩行箱では、繰り返し取り組むことで、教師の補助が少なくなり、自分で取り組める部分が多くなってきた。
- △人数や、サーキットの内容項目との兼ね合いで活動量の確保が難しかった。
- △道具の種類が限られているため、取組において本人の困り感を軽減する調整が難しかった。